

2023年度（令和5年度）社会福祉法人翔の会

## 生活相談室すまいる 事業報告

## 1 年度総括

年間を通して月平均4～5件の新規相談を受けており、時期によって差はあるものの、ほぼ毎月コンスタントに受け付けている状況であった。昨年度欠員だった常勤相談員を1名補充し、増加する相談件数に対応できるように取り組んできたが、今年度は非常勤相談員が1名減った状況の中で、相談件数は増加傾向が続き、相談がスムーズに受け止められるよう、より改善が必要な状況であった。年度全般に渡って児童に関する相談がコンスタントに入っていた。放課後等デイや児童発達支援等の利用にとどまらず、地域移行に関する事、本人状況から自宅での対応が困難になってきたケース等多岐に渡っていた。

また同居している高齢の親が自宅を離れることになる際の、当事者のその後の生活場所、サービス利用についての相談も目立つようになり、より高齢の支援機関と連携が必要な状況となっている。

## 2 相談員人員配置及び資格状況（2024年（令和6年）3月31日現在）

## 【相談員人員配置】

管理者（計画相談との兼務）	有・無
常勤専従	3名（常勤換算 2.8名：育児時短勤務1名のため）
常勤兼務	0名（常勤換算 名）
非常勤	1名（常勤換算 0.6名）
合計	4名（常勤換算 3.4名）

## 【資格】複数回答可

社会福祉士	3名
精神保健福祉士	1名
保健師	0名
相談支援専門員	4名（内、主任相談支援専門員 1名、現任研修修了者 3名）
その他	（医療的ケア児等コーディネーター 1名、管理栄養士 1名、強度行動障害支援者養成研修修了2名、精神障害者支援養成研修修了1名）

## 2 実施事業

### (ア) 障がい者相談支援に関する事項

- ① 福祉サービスの利用援助に関すること。
- ② 社会資源を活用するための支援に関すること。
- ③ 社会生活力を高めるための支援に関すること。
- ④ ピアカウンセリングに関すること。
- ⑤ 権利擁護のために必要な援助に関すること。
- ⑥ 専門機関の紹介に関すること。

### 【実績】

- ① 支援内容のうち 67%を占めており、相談のニーズに応じて様々なサービス調整を行ってきた。
- ② 利用者の課題の中で、債務整理や生活していく上での課題等、フォーマルなサービス利用によらない相談も増えている状況であった。
- ③ 昨年度開始した一人暮らしの支援では、一人暮らしを維持するためご家族の協力も得ながら、ヘルパー、通所事業所と連携して継続的な支援を行っている。
- ④ 具体的な取り組みを行えなかった。
- ⑤ 利用者やご家族の事情により、成年後見申請手続きが必要なケースについて、関係機関と連携して支援を行ってきた。
- ⑥ 相談のニーズによって、より専門的な支援を必要とする利用者に対して、就労支援機や医療機関等との連携を図ってきた。

### 【課題】

- ① サービスについては一時期に比べて資源自体の不足は解消してきている印象だが、その分利用者とのマッチングにおいて必ずしも数が増えたことのみによる資源の充足という状況ではなく、その中でより利用者の特性に合う事業所を探していく事の難しさも感じた。
- ② 継続して利用者のニーズに応じていけるよう、フォーマル、インフォーマル含めた地域の資源にアンテナを張っていく必要がある。特にインフォーマルな資源については関係期間との連携し、支援に必要な情報を得ていけるようにしたい。
- ③ 本人主体で「本人が地域でどのような生活を送りたい」と思っているのかという事を主に、その思い描く生活をどのような支援体制を組めば実現していけるのかという事を継続して考えていく。ヘルパー事業所や訪問看護とより連携していきたい。
- ④ 具体的な取り組みを行っていないため、どのような取り組みができるのか検討が必要。
- ⑤ 支援者として、利用者が成年後見の申請を行っていく上でのプロセスの理解。支援者が成年後見等の必要性を感じていても、利用者に困り感がなく介入が難しいケースへのアプローチの仕方。これらが継続課題である。

- ⑥ 専門機関につなぐのみではなく、専門機関とどのように役割分担を行い、利用者に対して支援を行っていく事ができるか。日常においてより連携を深めていくためにどのようなやり取りをしていくべきか。

#### (イ) 相談支援機能強化に関する事項

- ① 専門的な相談支援等を要する困難ケース等への対応に関する事。
- ② 地域の相談支援体制の強化に関する事。
- ③ 町内の教育機関やその他の、障害者等支援を実施している機関に対する専門的な指導、助言及び研修に関する事。

#### 【実績】

- ① 困難なケースについては、月2回の事業所内での会議での相談、検討を行っている。また必要に応じて行政や基幹相談支援センターに相談を行い、共同で支援にあたってきた。また就労や医療等の分野においては専門機関に助言を求める等して利用者支援にあたってきた。
- ② 毎月行われている委託相談支援事業所連絡会で検討を行っている。また主任相談支援専門員、医療的ケア児等コーディネーターとして湘南東部圏域の連絡会に参加し、圏域の課題を共有している。
- ③ 利用者を通じて、障害者等支援を行っている事業所や学校等と連携して支援を行ってきた。事業所支援としては具体的に行えていない。

#### 【課題】

- ① 継続して事業所内での連携、行政や基幹相談支援センターとの連携を図りながら支援を行っていく。日々の利用者支援を通じて、関係機関との連携強化を図っていく。困難ケースについては、事例検討やグループスーパービジョン等の機会があれば活用していきたい。
- ② 計画相談が手一杯で、委託相談件数も増え続けている中で、事業所としてスムーズに相談を受け止められる体制をどのようにつくっていくか、そして町としての相談支援体制の方向性を継続して考えていく必要性を感じている。また主任相談支援専門員や医療的ケア児等コーディネーターとして、地域の中でどう役割を担っていくのか連絡会の中で検討を行っていく。
- ③ 各支援機関との連携を継続しながら、地域の支援体制強化として事業所支援をどのような形で行っていくか。

#### (ウ) 居住入居等支援に関する事項

- ① 不動産業者に対する物件、あっ旋依頼及び家主等との入居契約手続きの支援に関する事。

- ② 利用者の生活上の課題に対し、緊急対応が必要となる相談支援、関係機関との連絡および調整に関すること。

#### 【実績】

- ① 県営住宅の建て替えに伴うフォロー、また物件を探している利用者と共に不動産業者に同行する等の支援を行った。
- ② ご本人の状態により同居家族が看ることが難しくなってしまった、独居の利用者の体調や状態の変化等緊急対応が必要な際に、行政や基幹相談支援センター、町内外の支援機関と連携して調整を行ってきた。  
利用者の状態から同居家族の負担が重くなり、施設入所やグループホーム入居希望があたり調整を行ってきた。  
また同居家族が高齢の親であるケースについては、高齢に支援機関と連携を図ってきた。

#### 【課題】

- ① 住宅入居支援として、ご本人では困難な部分について継続して支援を行っていただけるようにしたい。相談支援事業所としてどこまで介入していく必要があるかというところは、その利用者の関係機関と連携を図り役割分担できるとよい。
- ② 特に施設入所を希望されているケースについては、利用者の特性や施設の空き状況からなかなか入所に結び付くことが難しく、関係機関でより連携してアプローチしていく必要性を感じている。  
また生活上の課題について、高齢の親が関連しているケースも目立ってきており、高齢の支援機関との連携がより必要である。

## 4 2024年度（令和6年度）の主な取り組み

相談件数が増加を続けているため、相談員のスキルアップや連携を図ることで、スムーズな相談対応が行えるよう工夫を図っていく。また計画相談と委託相談の支援体制のあり方について、町としての検討を継続していく。

主任相談支援専門員を中心に医療的ケア児等、精神障害や行動障害等への専門的支援を十分に行えるよう、制度に適合した研修の受講、各連絡会に参加し課題や役割を共有し上で、支援を展開していく。円滑な在宅支援が行なえるよう、ヘルパーとの連携を強化していくと共に、精神障害の方を中心に訪問看護ステーションとの連携の必要性が高まっているため、各ステーションとの情報交換を密にとり、連携を深められるよう取り組みたい。